読者リポーターが行く
読リポ!
Do.Ku.Re.Po!

読者リポーターが行く

伊豆に花ひらいた仏教文化に出会う

歴史ロマン、
感じてきます!

今回体験するのは
鬼頭 里枝さん

伊豆半島はかつて、海上交通の要として非常に栄えていた。そのため、航海の安全と、そこに暮らす人々を守るため、多くの仏像が安置されていたという。仏像を多く所蔵する上原美術館は、35年にわたり、この地域の仏教文化を調査してきた。現在開催中の「伊豆の平安仏―半島に花ひらいた仏教文化」は、その調査の賜物だ。鬼頭里枝アナウンサーが知られざる伊豆の仏教文化に触れた。
《企画・制作／静岡新聞社営業局》

山津波を乗り越えて掘り出された仏像たち

今回の目的地である美術館訪問の前に鬼頭さんが訪れたのは、河津町谷津にある南禅寺（なぜんじ）。かつてこの地域に大きな影響力を持った「那蘭陀寺（ならんだじ）」の跡に建つ寺で、平安時代の仏像が多数安置されている。昔ながらのお堂の隣に造られた「伊豆ならんだの里　河津平安の仏像展示館」には、平安時代から伝わる仏像が多い伊豆の中でも、学術的・美術的に貴重な仏像が数多く展示されており、今回上原美術館で開催中の記念特別展「伊豆の平安仏」にも貸し出されている。

まず室内に入ると、大きな薬師如来坐像の迫力に圧倒された鬼頭さん。河津平安の仏像展示館館長の板垣光彦さんは「これは平安前期に造られたもので、カヤの木から彫り出されているんです」と話しながら、鬼頭さんに小さな木片を手渡した。鼻を近づけてみると「シナモンみたい!」。当時は香木でもあるカヤの木で造られた仏像が多く、この展示館にある仏像も同様だという。

ここで鬼頭さんがあることに気付いた。「この仏像の多くが、腕がなかったり、割れていたりするのはなぜですか」と板垣さんに尋ねたところ、その数奇な運命について説明してくれた。もともと河津は海上交通の要として知られていたが、古い時代に起こった地震と山津波（土石流）により那蘭陀寺は流され、仏像の多くが土砂に埋まってしまった。薬師如来坐像は本尊だったためすぐに掘り出されたが、その他の仏像はその勢いで破損したり、掘り出されるまでに時間がかかったりしたため、本来の姿を残したものが少ないのだという。長い年月土砂に埋まったままだったものは、朽ちているところも多いが、造形としての力強さが伝わってくる。

教育の一環として触れられるものも

そしていよいよ上原美術館へ向かう。静かな山あいにある同美術館は、大正製薬の名誉会長を務めた上原正吉・小枝夫妻によってつくられた上原仏教美術館、その長男で現・名誉会長の昭二氏によってつくられた上原近代美術館が一つになり、昨年、上原美術館として生まれ変わった。その象徴に、入り口には正吉・小枝夫妻の像と、大正製薬のロゴマークでもおなじみの鷲も!

今回案内してくれたのは、主任学芸員の田島整さん。鬼頭さんはワクワクしながら、さっそく中へ。まずは仏像ギャラリー。近現代の仏師たちにより造られたおよそ１２０体の仏像が並んでおり、田島さんはそれぞれについて解説していく。その中で、鬼頭さんが気に入ったのが、左奥にある三福神。「直接触ってもいいですよ」と田島さんに促され、ぷっくりしたお腹をさわったり、ほおずりをしてみたり。「触ってもいい展示物があるって、おもしろいですね」という鬼頭さんに田島さんは「この部屋は撮影もOKです。小学生が教育の一環として訪れることも多いので、見るだけではなく触れてもらうと、より興味がわくようですよ」と柔らかい笑顔を見せた。

上原美術館主任学芸員
田島 整さん

上原美術館
下田市宇土金341　TEL.0558-28-1228
入館料／一般1,000円/学生500円/高校生以下無料 ※仏教館・近代館共通
開館時間／9:00～17:00（入館は16:30まで）

秘仏や非公開の仏像が一堂にそろう貴重な展示

そして奥に進み、開催中の「伊豆の平安仏」を展示しているスペースへ。展示室前の廊下には「仏手残欠」が。「これは先ほどご覧になった河津平安の仏像展示館からお借りしたものです。長い期間埋まったままで、どの仏像の手なのか分からないのです」と田島さん。まだその地域では掘り起こされていない仏像も数多く眠ると推測されているという。

遠い昔へのロマンを感じながら、いよいよ一番奥の展示室に。ここには伊豆各地から集められた平安仏が展示されている。中には60年に一度開帳される秘仏や通常では非公開の仏像なども。静岡県指定文化財の千手観音立像や美と幸運の女神でもある吉祥天立像など、静かにたたずむ仏像たちを見ていた鬼頭さんが、帝釈天立像の前で立ち止まった。顔の右半分が大きく削られ、穏やかな立ち姿とのギャップを感じさせる。これも河津の山津波の被害の跡だと考えられているという。「帝釈天は女癖が悪く、罰を与えられたことで修行を積み、今の姿になったと言われているんですよ」という田島さんの説明に、鬼頭さんはますます興味がわいた様子だ。

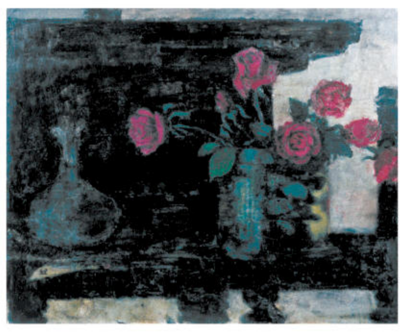
この他にも伊豆最古の不動明王坐像や下田市指定文化財の観世音菩薩立像など、おごそかで気品のある仏像たちにひきつけられた鬼頭さん。「こうした調査をしている中で、中にはその価値に気付かず、捨てられそうになっていたケースもありました。やはり発掘し、それを伝えていくという責任が私たちにはあるんです」と田島さんは力強く語った。こうした草の根的な調査が、当時の人々の暮らしを今に伝える役割を果たす。鬼頭さんもこの訪問で、歴史のロマンをしっかりと感じ取ったようだった。

体験を終えて

最初は仏像と言われてもあまり知識がないためピンときませんでしたが、田島さんのお話を伺ったら、その仏像の歩んできた歴史や人々が込めた思いなどが伝わってきました。この美術館は静かな環境で心も落ち着く感じ。またゆっくり訪れたいです!

リニューアル1周年記念　特別展

伊豆の平安仏
―半島に花ひらいた仏教文化



同時開催
須田国太郎展
―上原コレクションから―

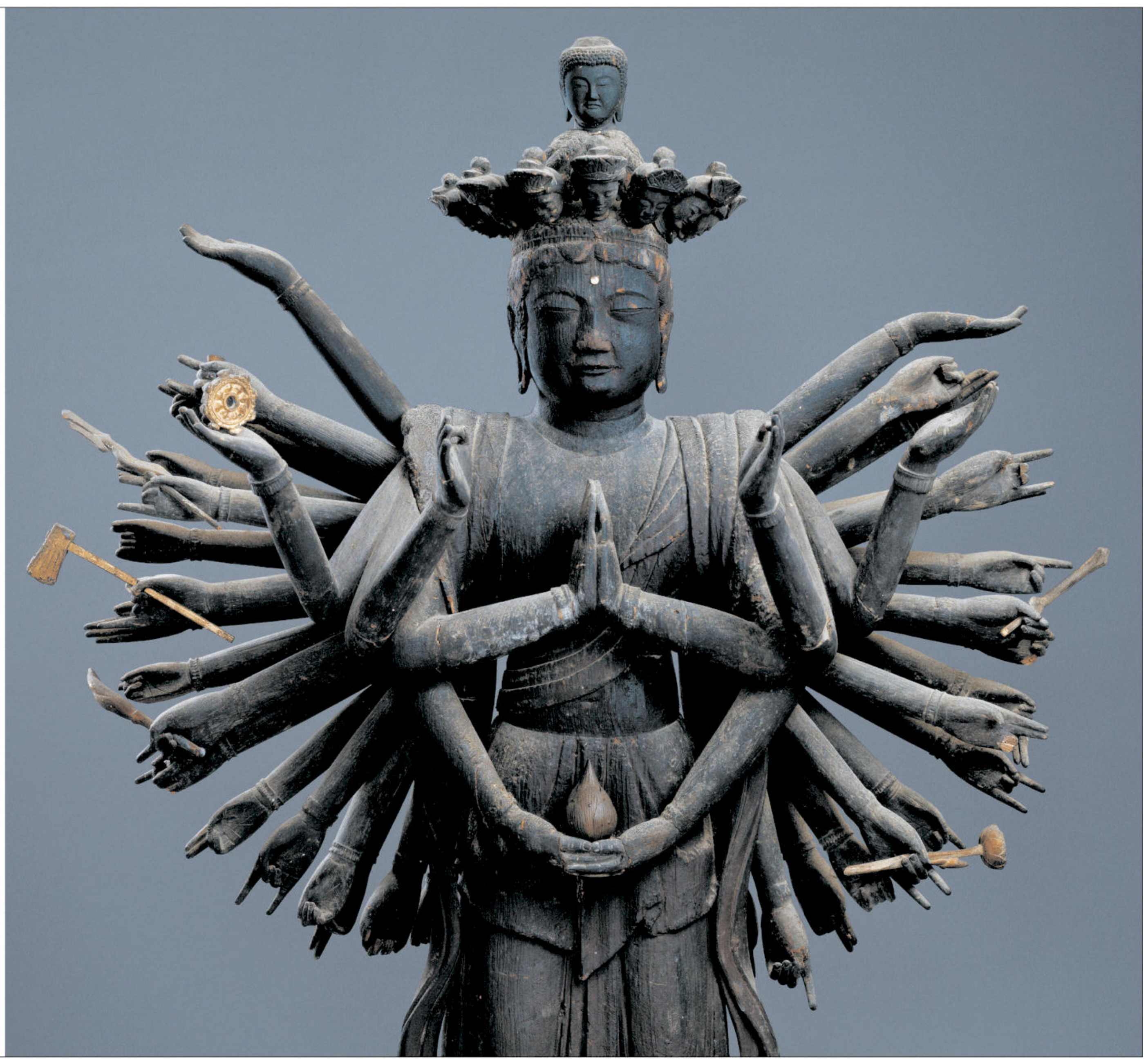
2018年9月22日㊏―12月9日㊐
会期中無休

秘められた千手観音
寺外初公開

東洋と西洋の美の出あい
上原美術館
Uehara Museum of Art

開館時間｜午前9時―午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料｜大人1,000円／学生500円／高校生以下無料
＊仏教館・近代館の共通券です
＊団体10名以上は10%割引

〒413-0715　静岡県下田市宇土金341　Tel. 0558-28-1228
www.uehara-museum.or.jp



千手観音立像　平安時代　静岡県指定文化財
金龍院（伊豆市大平）　像高68.5cm
撮影：田畑みなお